

# 令和5年度 岐阜県立障がい者職業能力開発校運営懇話会

## 議事要旨

### 1 開催日時及び場所

令和5年9月13日（水）13時30分～15時00分

岐阜県障がい者総合就労支援センター 大会議室

### 2 出席委員

池谷尚剛会長、小山和義委員、桐野考造委員、森敏幸委員、川地政明委員、  
景山多美委員、近藤真司委員、松原勝己委員、奥村佳子委員、守屋朋伸委員

### 3 事務局

労働雇用課、障がい者職業能力開発校

### 4 会議の概要

- ・あいさつ
- ・資料説明
- ・意見交換

### 5 主な意見

#### ○訓練生募集の広報について

- ・開発校も4年目となり、ナカポツ等関係機関、県内企業にも知れ渡ってきた。現在の広報活動を地道に継続していくことが必要である。
- ・特別支援学校の生徒向けには、2年生のうちからPRしていくことが効果的である。また、特別支援学校の多くの生徒は、卒業後の就労を目指しているため、卒業後、更に開発校で訓練をしたいという気持ちをなかなか持たない。特別支援学校の3年間で、就職を目指したが叶わずという方が、開発校で訓練し就職できたというモデルを示していけると良い。
- ・就職率だけでなく、定着率、訓練で習得した技能等についても、アピールしていくと良い。
- ・高等学校に在籍している特別な支援が必要な生徒について、社会に出る前の1つの進路として開発校で学ぶことを、教育委員会と連携しながら取り組んでいくと良い。

#### ○訓練カリキュラムについて

- ・社会環境が変化していく中で、訓練の対象となる方、就労するために必要とされる技

能、就職する環境は変わっていく。社会のニーズに合わせた訓練カリキュラムの見直しをしていくと良い。

○定着支援について

- ・特別支援学校は、高等部卒業後、概ね3年間、ナカポツと連携しながら追指導を実施している。それを参考にナカポツと連携して支援していくと良い。

○その他

- ・訓練生への支援については、各機関と連携を取りながら進めていく必要がある。開発校に入校後、または就職後も、それまで関わってきた支援機関と連携した支援が必要である。
- ・職場への定着については、課題は受入れ企業側にあることが多い。現場で見守りながら、状況に応じ少しずつ変化していく力が受入れ側に必要である。そのためには、会社に対する支援機関の支援が大切である。